

第15回流山市全市コミュニティ推進委員会会議録要旨

- 1 日 時 平成23年10月20日(木) 午後2時
- 2 場 所 流山市役所第1庁舎第1委員会室
- 3 出席委員 相川 征治 委員長、狼 正久 副委員長
梅谷 秀治 委員、河村 栄夫 委員
染野 智司 委員、野路 丞一 委員
倉田 繁夫 委員
- 4 欠席委員 関谷 昇 委員、小泉 尚子 委員
高市 正高 委員
- 5 事務局職員 高橋 とし子 コミュニティ課長補佐
須郷 和彦 コミュニティ係長
- 6 協議事項 (1) 流山市補助金等審議会の答申について
(2) 地域まちづくり協議会に関するパンフレット
について
(3) (仮称) 地域まちづくり協議会事例発表会に
ついて
- 7 協議状況 開 会 午後 2時00分
閉 会 午後 4時39分

I. モデル地区、おおたかの森地域からの報告

(1) 流山小学校区まちづくり協議会（梅谷委員・河村委員）

- ・ 8月27日防災セミナー開催。
- ・ 伝統文化の維持向上事業として、3回（同内容）で行われ、相川委員長、河村委員が3回目に参加した。流山小学校が日本最古の小学校であるといった内容で面白かったが、参加者は20名前後である。
- ・ 10月10日フィットネスな一日を開催。
運動指導を受けて健康セミナーに参加し、セントラルの機材を利用して一日過ごせるもの。参加者は午前、午後ともに15人程度であった。
- ・ フィットネスをもって、秋の予定は完了。
- ・ 来春のフィエスタは、身の丈にあったものをするということで合意し、一部縮小となるが、商工会議所との話し合いも順調である。
- ・ 来年の予算づくりを踏まえ、総会、役員会を近々開催したい。

課題

事業への参加者は15名から20名前後とあまり多くない。原因としては自治会に溶け込んでいないことが考えられる。参加してくれる人は平和台関係の新しい人が多く、流山1丁目～8丁目は参加していないので、この辺の対応が必要である。

(2) 新川まちづくり協議会（染野委員）

9月

- ・ 新川月次報告書9月とまちづくり通信 No.6を参照。
- ・ 9月10日（土）に稲刈り実施。250㎡の田に5月に植えた稲。59名参加。
- ・ 9月29日鷹匠との打ち合わせ。餅つき大会の時に猛禽類の展示を企画している。とんぼ教室の猛禽類バージョンである。
- ・ 9月29日臨時役員会。地域のお宝発見プロジェクトにより発見された問題を話し合った。9チーム、のべ100人の人が参

加。課題は多いがうまく解決すればお宝となるものが3件、また、皆で話し合って解決しなくてはならないものは4件。

10月以降

- ・10月は地域会準備。
- ・11月27日地域会開催。(午後3時より北部公民館にて)
全自治会長、地区社協に集まって頂く。うまくいけば次のステップとなると期待している。
- ・12月は餅つき大会開催予定。

その他

- ・課題については市の担当部局と話し合いを希望。共通の問題として市と地域がどうやって連携するかということで、年内に行いたいと考えている。

(3) 長崎小学校地区について

- ・本日小泉委員が欠席のため報告はできないが、9月27日に協議会が行われた。
- ・まちづくり協議会設立準備会を正式に設立し、市長あてに関本氏の名前にて、関本氏、小泉氏、八木地区の松本氏の役員の名簿を添えて、来年協議会を設立するという内容で文章を提出した。

*事務局より：今の内容で庁内決裁を回させていただいた。具体的な事業は設立時に提出してもらうことになる。

(4) おおたかの森地域(野路委員)

- ・10月5日「流山新市街地地区 安心・安全まちづくり協議会」に出席した。(A4両面2枚の資料あり)
- ・予算の収支予定およびワーキングについての説明
 - ①蟻の目ワーキングとして防災関連マップ、行動指針の作成
 - ②分科会として

- ・千葉県説明会の内容について
- ・ホームページ作成について
- ・住民への参加要請について（震災対応マップ作成、被災時行動指針作成に対する意見交換、各種講座への参加・協力の確認等）

③協働ワーキング

- ・ファシリテーター養成
流山ファシリテータークラブが主担当として講座を開催する。（毎月第2水曜 18:30～20:30）
- ・その他（AED利用講習会・江戸川大学公開講座・安心安全カード・災害対応イベント・子育て親支援、高齢者支援については進捗状況の報告ができないため省略）

Ⅱ. パンフレット・シンポジウムについて

（1）パンフレットについて

委員からは見積もり等の事務的手続の話をとということが出たが、事務局からは内容についての最終的な確認が求められた。

内容については、もう少しわかりやすいものがよいという事務局に対し、委員から具体的にわかりにくいところを示してほしいとの意見、答申の内容目線で見られるということも考えたほうがよいとの意見が出た。また、事務局からの委員以外の方に見ていただいてはどうかという提案に対しては、自治会長や地区社協の方にも聞いてみたほうがよいのではないかとこの意見が出た。

（事務局より）

補助金審議会、説明会でもまちづくり協議会と自治会との違いがわからないと言われている。このパンフレットのどこの部分を見れば、それがわかるということではなくてはいけないのではないか。

広域化、複雑多様化とは具体的にどういうことか。例えば災害時のことも自治会ではクリアしてしまっている。言葉で

は広域化、複雑多様化、少子高齢化といわれるが、どうやれば改善できるのかということを書き添えていただければよいのではないかと。通学路の側溝の問題、除染問題についても、保護者だけ、PTAだけでよいのか、自治会が協力している地域もある。そういったところで、自治会と協議会はここが違うということをはっきりさせる。自治会も残るし、いろいろな団体はそれぞれこれからも活動する。特に地区社協の活動はかぶる部分が多いので、どこが違うのか、具体例を出して書いたほうがわかりやすい。

まちづくり協議会がなぜ良いのかということをはっきりと見てわかるように書いてもらいたい。

全市コミュニティ推進委員は内容をよくわかっているが、そうでない人に一度見てもらってわかるかどうか聞いてみることも一法ではないか。

(2) シンポジウム（発表会・説明会）について

- ・当初予定の12月3日は関谷先生のご都合が悪いため、改めて関谷先生との日程調整をする。
- ・推進委員としては関谷先生の出席は必須ということで合意。内容については、説明会前半部分はモデル地区の説明を行い、後半は関谷先生の講評という前回の合意通り。
- ・関谷先生の出席が望めない場合は、市長、市サイドからこれで行うということをお話してもらえればよいとの意見が出た。
- ・予算の問題も出たこともあり、12月に限定しなくても良いのではないかとこの意見もあった。

※関谷先生のご都合については事務局で確認する。

Ⅲ. 流山市補助金等審議会の答申および来年度予算について

(1) 事務局からの報告

流山市補助金等審議会（7月ヒアリング）の答申における評価はCランクであった。100以上ある事業の中で、Cランクは本事業のみであり、廃止を含めた全面的な見直しが必要である。平成24年度に2小学校区、平成31年度には15小学校区すべて立ち上げる計画であるが、見直しをしなければならぬと考えている。

さらに財政状況についても来年の歳入見込み、税収の減少、放射線問題への費用等を踏まえると、18億円の不足となり、答申の内容は尊重されると考えるので、皆様のご意見を伺いたい。

来年度については、新規2つの協議会については難しいと考えるが、モデル地区については予算要求するつもりである。事業をせずに協議会を立ち上げることで、モデル地区を熟成させるということも一法かと考える。

補助金等審議会は第3者審議会であり、無視はできない。今年度はCランクであったが、審議会は毎年行われるので最低でもBランクにしなければ今後はもっと難しくなる。従って、審議会に理解してもらおう努力をもっとしなくてはならず、パンフレットも含めて流山市にとって必要なものとなればよい。

平成24年度予算については、150万円とした時にまたC評価であれば厳しいが、100万円に下げれば審議の対象にならない。

(2) 委員からの意見等

- ・7月時点では、Q&Aを文書にしていろいろと含まれていたのにもかかわらず、それを踏まえた審議ではなく、初歩の部分で答申されている。
- ・平成22年度段階で理解されていなかったのではないか。
- ・市長が音頭をとって、10年計画にも載せているのに、審議会が理解できないということで、大きなもので崩すというのは理解できない。市長が撥ねればよいのではないか。
- ・委員には加入率92%といった強い自治会のメンバーが入って

いることを考えると、自治会との差を出していかなくてはならない。明らかに論議不足であり、審議会メンバーに対する不信任を出してもよいくらいである。

- ・審議会に対してだけではなく、市役所の職員にまちづくり協議会がどれだけ理解されているのか。基本的な考え方を市も含めてやってもらわないと続けていく意味はない。
- ・市長は答申に対してどう考えているのか。
- ・ここまでするのに6年かかっているので、やめたら再び立ち上がらない。行政と、市長と話して、評価を変えさせるためにはどうしたらよいか、努力して結論をひっくり返させないとならない。
- ・まちづくり協議会を理解してもらい難しさがあるが、理解させる努力が必要である。市長が長期計画に入れたということをきちんと理解してもらいたい。きちんと守るという姿勢が行政にも必要である。
- ・審議会の答申だから無視できないということはあるが、市長にしてみれば議会を通った計画とどちらが強いのか。誤解、認識不足ということではないか。
- ・具体性のある補助金であればよいが、まだ仕組みなので理解できないということではないか。
- ・このような事態になったことに対しては言いたいことは山ほどあるが、とにかく実績を作ること、具体例を示すということである。
- ・事業がないが、協議会だけを立ち上げることは現場では考えにくい。
- ・行政側でこの事業を極端に考えている人はいないので100万円でやむを得ないのではないか。
- ・金額の問題ではなくて、ここに至るまでにやるべきことがあったのではないか。そこをしっかりと議論しないとまた繰り返しになるのではないか。

※委員会としては、行政に任せるといふことになりそうである。
100万円で納得はできないが、その辺については議論したとい
うことに留めたい。

IV. 次回日程について

- ・平成23年11月17日（木）14時より16時まで、第16回全市コミュニティ推進委員会開催予定。
- ・シンポジウム（発表会）については、関谷先生の日程を調整し、基本的に土・日で考える。（来年度の公募をしないのであれば3月くらいまでに考えればよいのではないかとの意見もあった。）
- ・パンフレットについては、委員以外の周囲の人に見てもらい、その結果を踏まえて再考する。

（16時39分 閉 会）